



十指源氏七



新  
之  
梅  
之  
夕  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

石  
之  
車

石  
之  
車

栢木 源平八方まより姑まてまろ

あまのせんぬきのやまをこころしそと年かたの  
父がくまのこがけさひくわう痛のいまわ  
ましんくはらうまうむねまゝまをたふ

<sup>栢</sup>まのこころしそと年かたの

あまのせんぬきのやまをこ

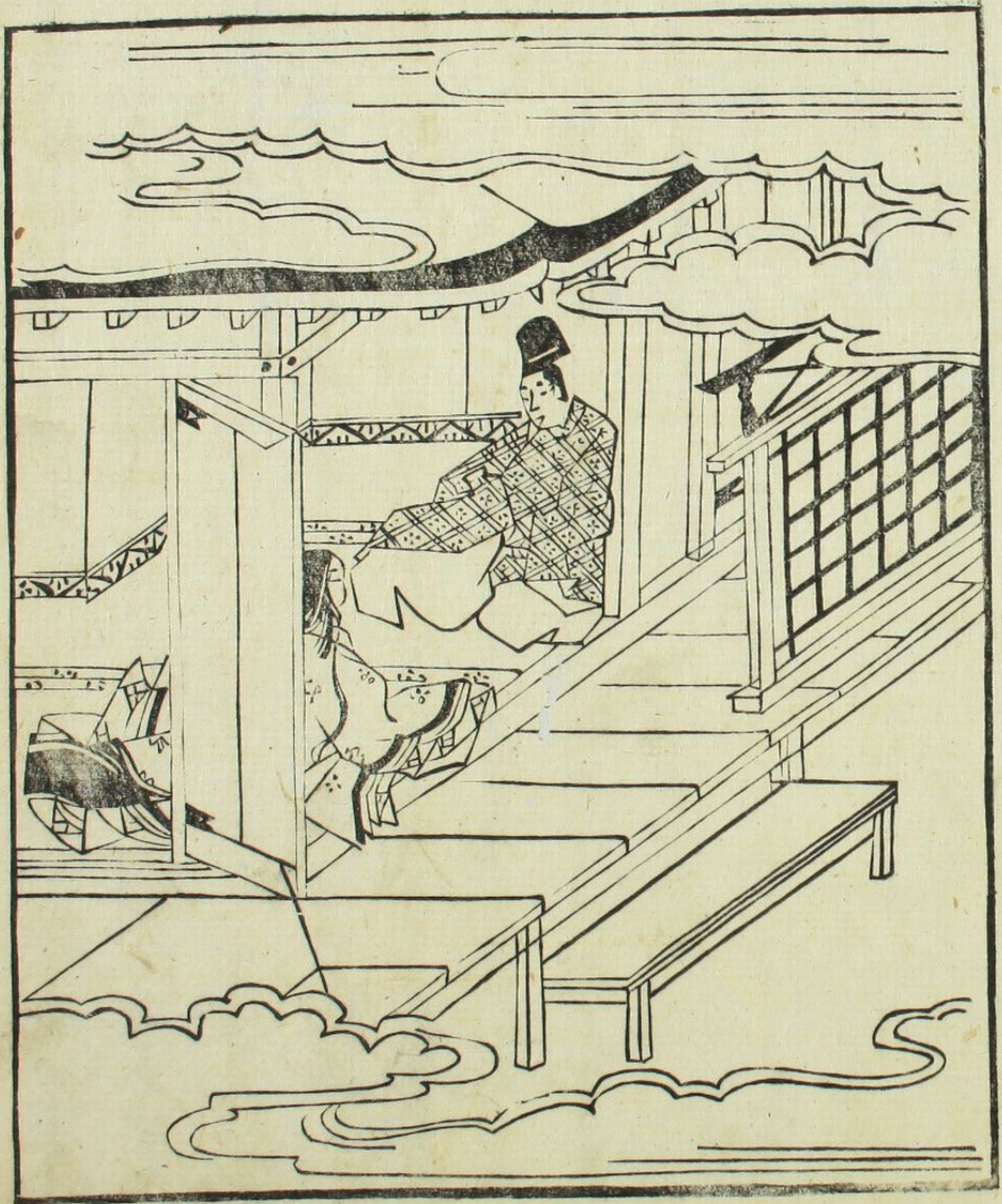
あまのせんぬきのやまをこ

あまのせんぬきのやまをこ

あまのせんぬきのやまをこ

あまのせんぬきのやまをこ

あまのせんぬきのやまをこ

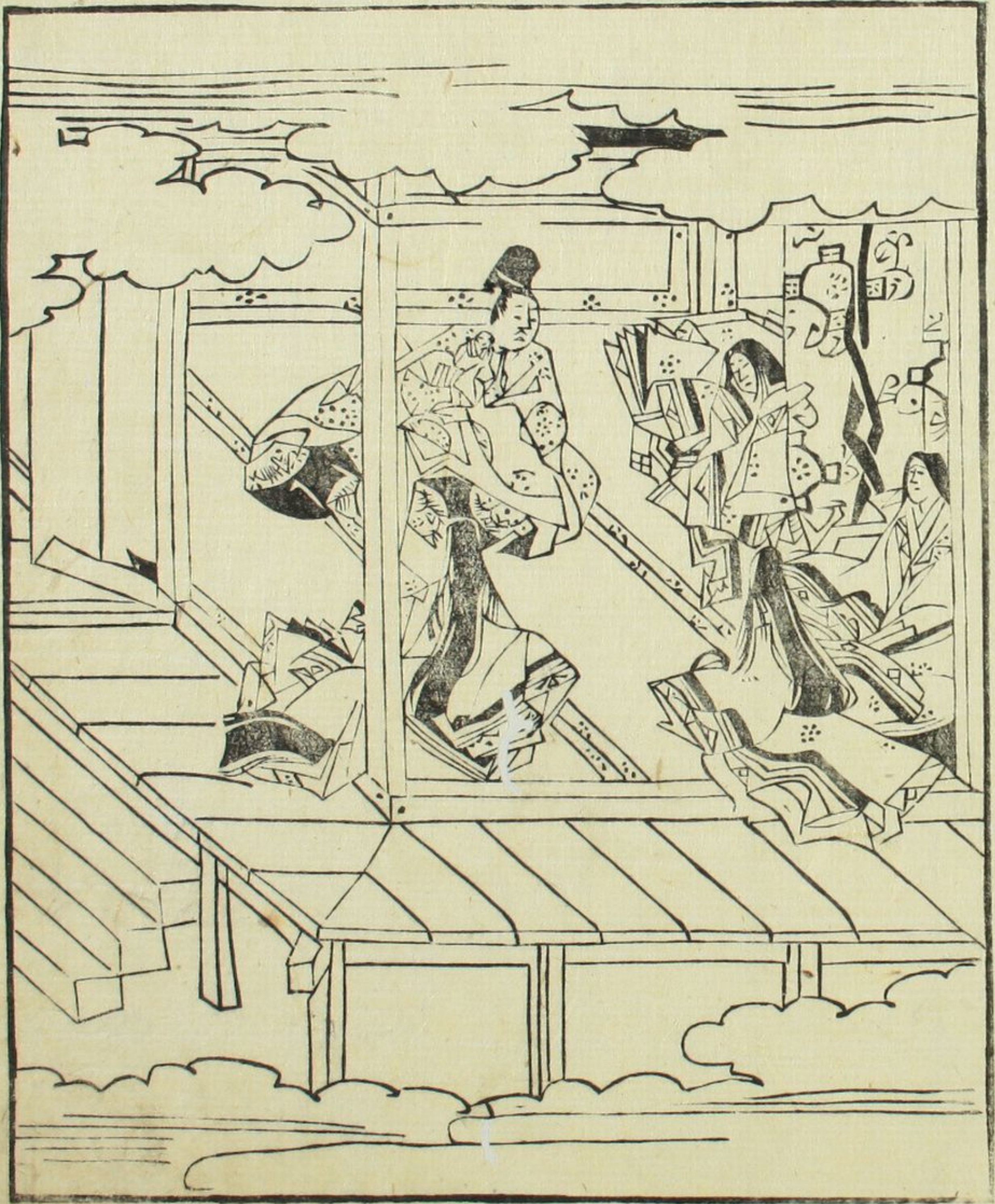


とそむきしつらうかしては流しかたしひきよめは  
どうぞ源よきくれありて世にあらん事おぼ  
ゆかきありいしぬいさき人し物とあり  
まらゆきはと洞業の町見ある世をりし人の  
しやうてかきせしうまといそありしおめ  
とくしそなりありとほのゆありしあり  
しよしきありしよしきありしよしきあり  
まらゆきはと洞業の町見ある世をりし人の









一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百





Handwritten musical notation on the right page, consisting of several lines of cursive script.

横笛 源字の事 (Musical notation)

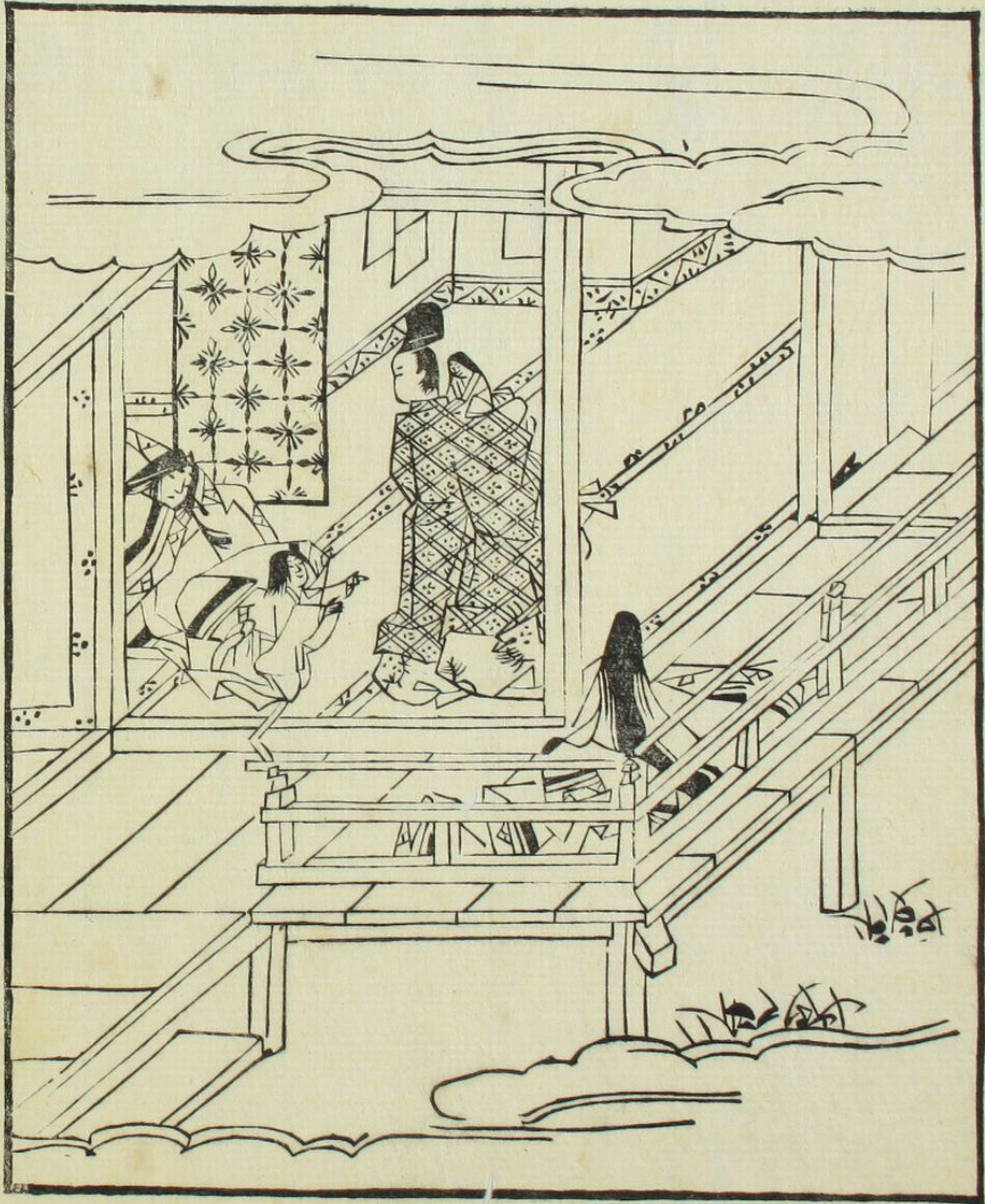
Handwritten musical notation on the left page, starting with the section header '横笛 源字の事'.

Handwritten musical notation on the bottom page, consisting of several lines of cursive script.









鈴虫

源のちやうく書かすり

山朝并

なるはらうらの花れうらよ入道の花まに持込  
 く何とせよとほよおこれはなすしそ錦の  
 とさ葉のよきさきさきをほようら乃かすり  
 法衣のまごうかけてまろこのの花ああま  
 佛けじぬおらうあくびやんては  
 くらまうわうとほのけけけけかかや  
 るうらうらうらうらうらうらうらうら  
 海師まうのりうらああまのうらまの  
 ちうまうまのひらうらうらうらうら  
 やくわらうらうらうらうらうらうら







はらわたるにやうにふらふらと  
はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

五條

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

はらわたるにやうにふらふらと

夕霧 涼みや 等

夕霧がたのちのまはにやうにふらふらと

夕霧がたのちのまはにやうにふらふらと

夕霧がたのちのまはにやうにふらふらと

夕霧がたのちのまはにやうにふらふらと

たのおちのうまむくうらあひいあひいのひま

ーとさうおのふよえわうひらとて月すりと

うのむくひとまおひもわわのひらがな

う血紙をぬくひまおひとよのむくひ

のこまおひそむくひ女二のひまおひのまひい

うおひとまおひとひら年らりおひ

おひとまおひとひらとひらとひらとひらと

乃おひとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

女三

うらとひらとひらとひらとひらとひらと

あつぞとひらとひらとひらとひらとひらと

まともううらとひらとひらとひらとひらと

おひらううらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

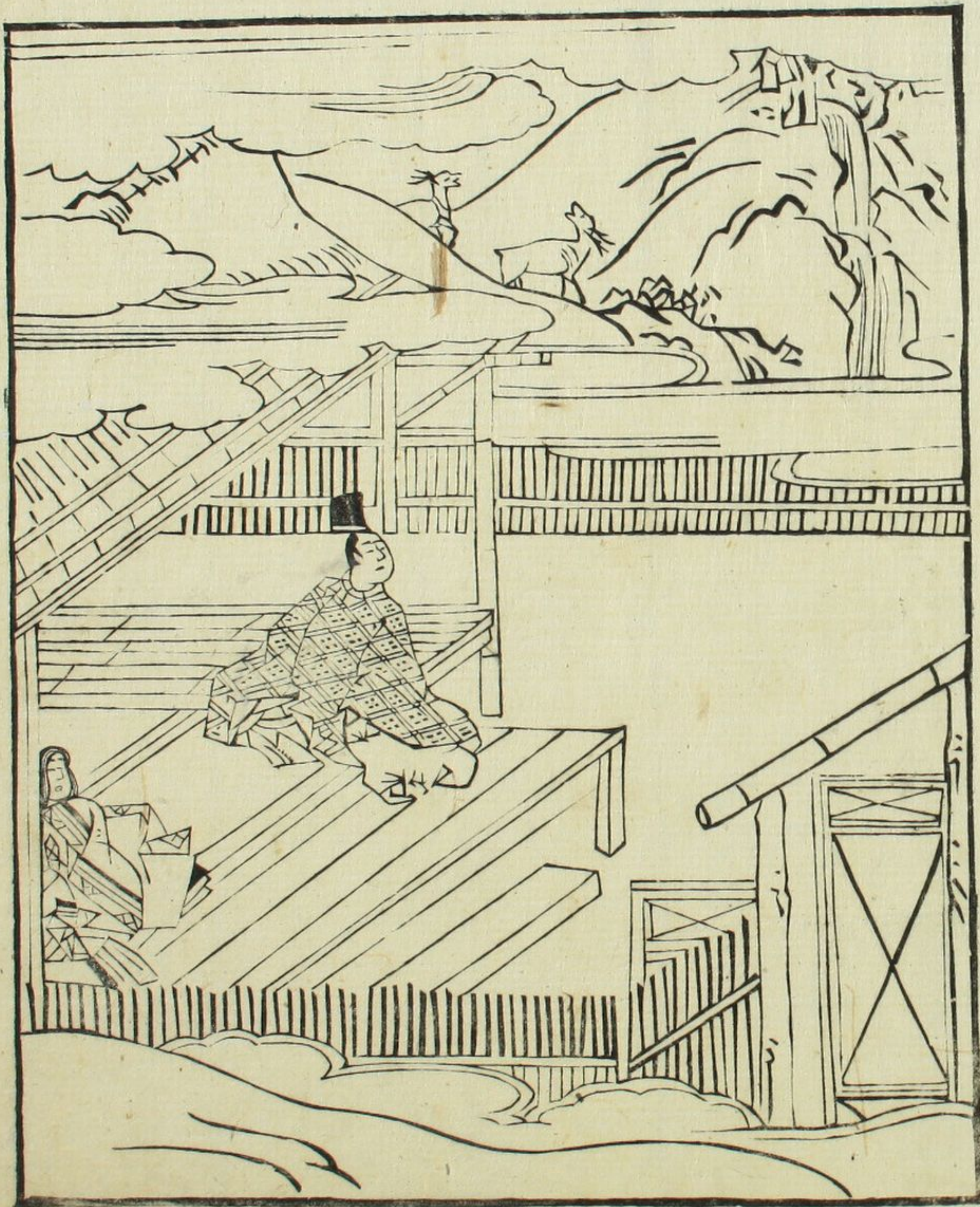
ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと

ひらとひらとひらとひらとひらとひらと



かりておぼくもさういふことか  
 らしきまゝに思ふに神のまゝに  
 2物を思ひまげても神のまゝに  
 たらしきまゝに思ふに神のまゝに  
 申さるるのまゝに思ふに神のまゝに  
 かりておぼくもさういふことか  
 神のまゝに思ふに神のまゝに  
 おぼくもさういふことか  
 かりておぼくもさういふことか

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a large initial letter, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. There are some small annotations or corrections in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'D', followed by several lines of text. There are some small annotations or corrections in the middle of the page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of approximately 14 lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of approximately 14 lines of cursive script.





如  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 廿一  
 廿二  
 廿三  
 廿四  
 廿五  
 廿六  
 廿七  
 廿八  
 廿九  
 三十



乃て其の事  
乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

乃て其の事

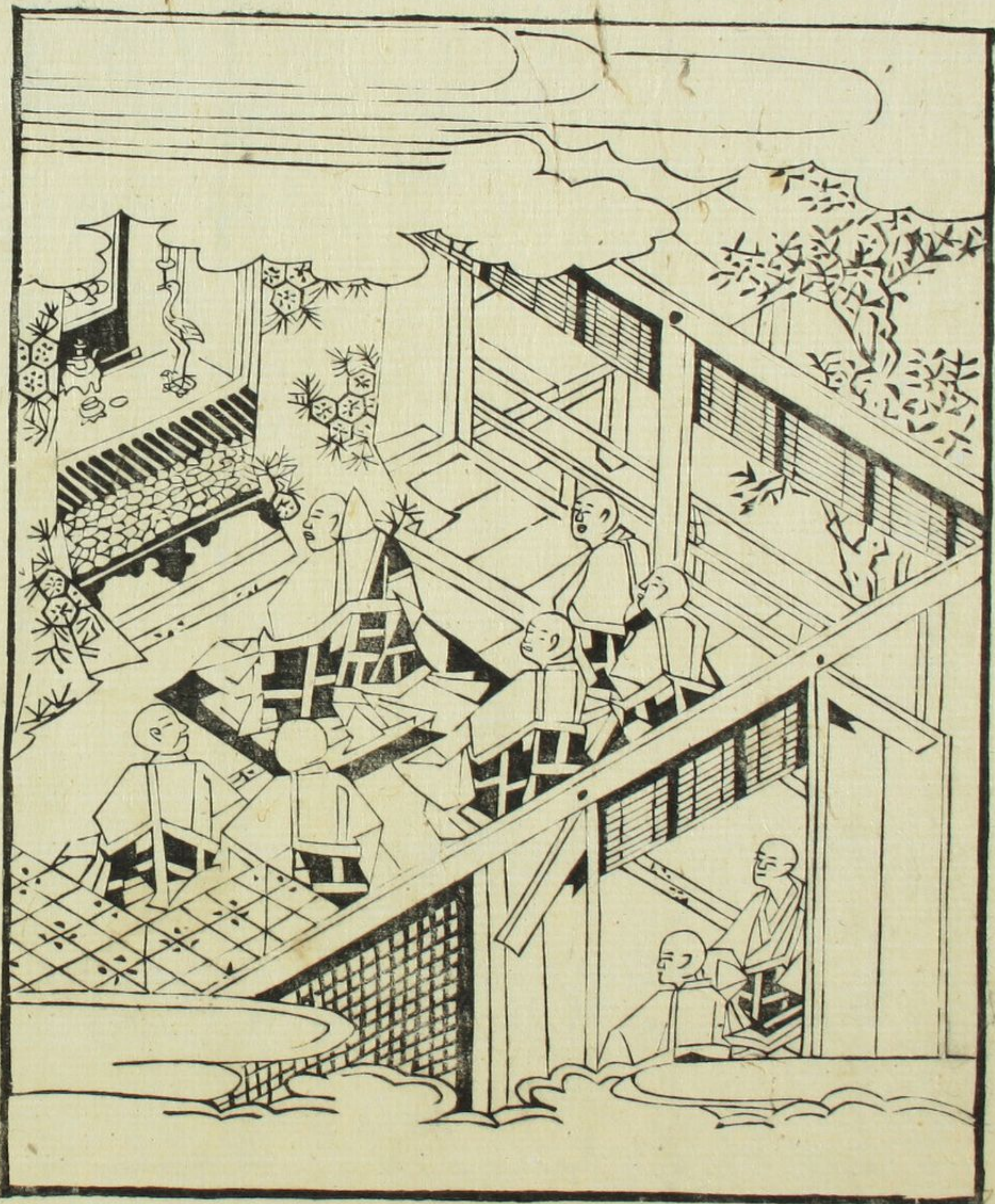
乃て其の事











花

ひすいそく 紫のへんそく 大くさ  
のりすく ちきいものしきい

あまねていせいのあつふふいしきい 入道  
へきかろく ちりくろ 名ぬいせん と 史記すまを  
人みんあふん ちりくろ 中宮いん へきい 対  
面のとく へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ  
自あふんあふん へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ  
かゆいしきい へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ  
あふん へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ  
へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ  
らむくろ へきくろ へきくろ へきくろ へきくろ

終つて後かゝりてしむるもあはれいかに  
か<sup>はまの</sup>あはれ多しといふは後多ておれと撰とい  
花のあはれくりにあはれい多人佛よまはれ  
中を知らん<sup>白</sup>すうまきりぬかよまのうけ  
終つてせんさいとすうまきりぬかよまのうけ  
終つて流まきりぬかよまきりぬかよまのうけ

源  
あはれい多しといふは後多ておれと撰とい  
か<sup>はまの</sup>あはれ多しといふは後多ておれと撰とい  
花のあはれくりにあはれい多人佛よまはれ  
中を知らん<sup>白</sup>すうまきりぬかよまのうけ  
終つてせんさいとすうまきりぬかよまのうけ  
終つて流まきりぬかよまきりぬかよまのうけ

あはれい多しといふは後多ておれと撰とい  
か<sup>はまの</sup>あはれ多しといふは後多ておれと撰とい  
花のあはれくりにあはれい多人佛よまはれ  
中を知らん<sup>白</sup>すうまきりぬかよまのうけ  
終つてせんさいとすうまきりぬかよまのうけ  
終つて流まきりぬかよまきりぬかよまのうけ





あはれなるまはるるのうらなひのさかき

幻 深草十三少 公方あふ

まのひらり紙を繰りよつてよれおかしき  
屋へそくしき行つてはらまをいそいで  
すのひまのこめりしきまのまのまのまの  
行へるまのまのまのまのまのまのまの

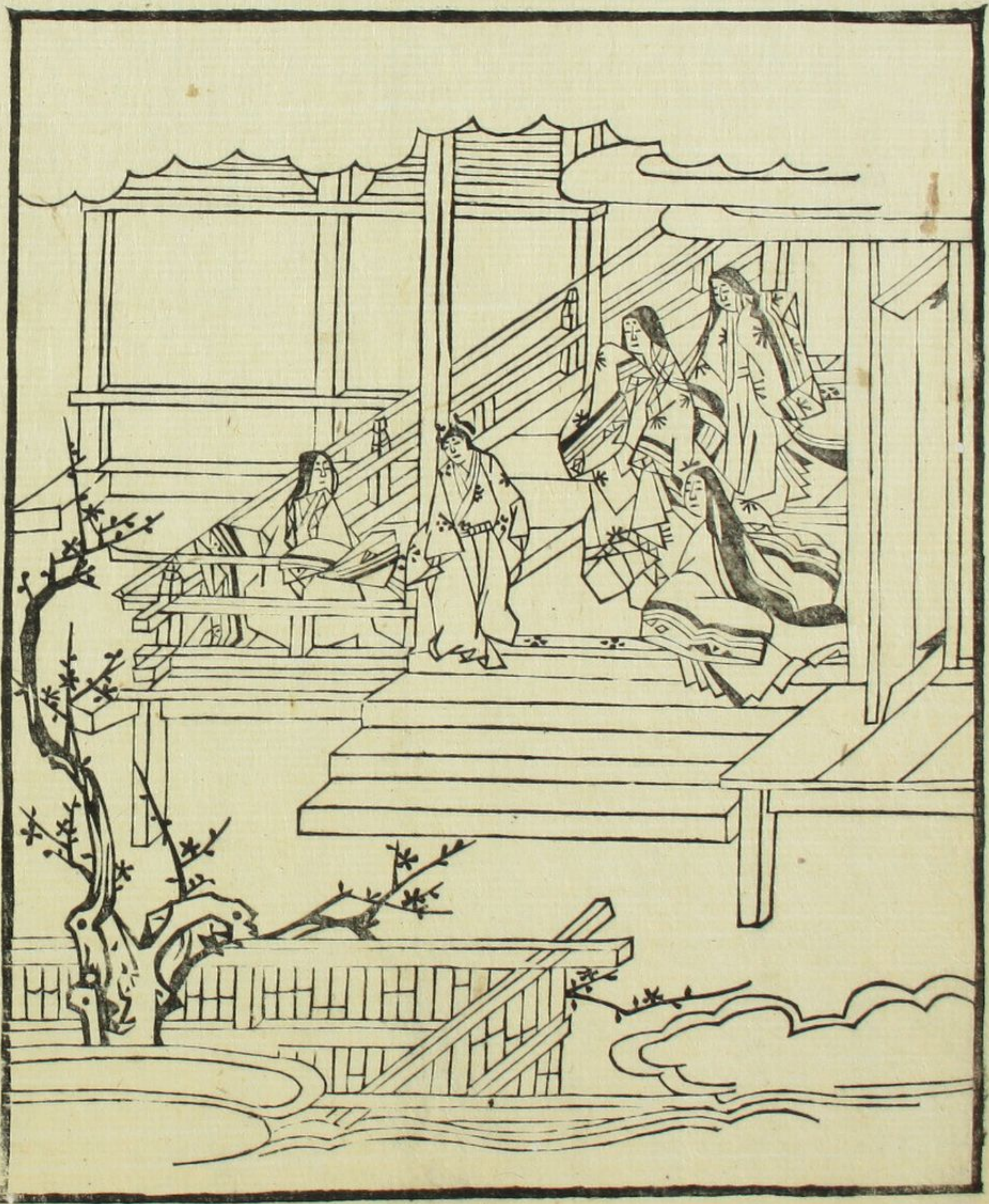
あめりき乃らりぬまうらん  
まのまのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの

花のあはれなるまのまのまのまの

思ひ人られはるるまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの  
ありのりりりりりりりりりりりりり

申細くは君上のうらなひの中おのまのまのまのまの  
は物清きまのまのまのまのまのまのまの  
乃まのまのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの



小舟のちりちりしるはらふにまはれおのたにむ  
 とらうてはなまゝく花裾さうらさかえさうらと  
 のけ花をくまはりわすれおひららたらよ  
 りまゆらうが桜のうらまゝのあつらうの地を  
 こころのうらまゝとあびすのうらまゝと  
 かしらのうらまゝとくわくわく  
 とらうてあつらふとせんかたさ  
 んとくわくわくわくわく  
 今おのちりちりしるはらふにまはれおのたにむ  
 かしらのうらまゝとあびすのうらまゝと  
 かしらのうらまゝとくわくわく  
 今おのちりちりしるはらふにまはれおのたにむ

終るに...  
ての...  
ら...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

みりぬらふあつらひは物大巧未だ  
けしきもなほいけしき

かゝる人をまのりおのりあは

あつらひやまのりいけしき

大巧 都をまのりいけしき

あつらひやまのりいけしき

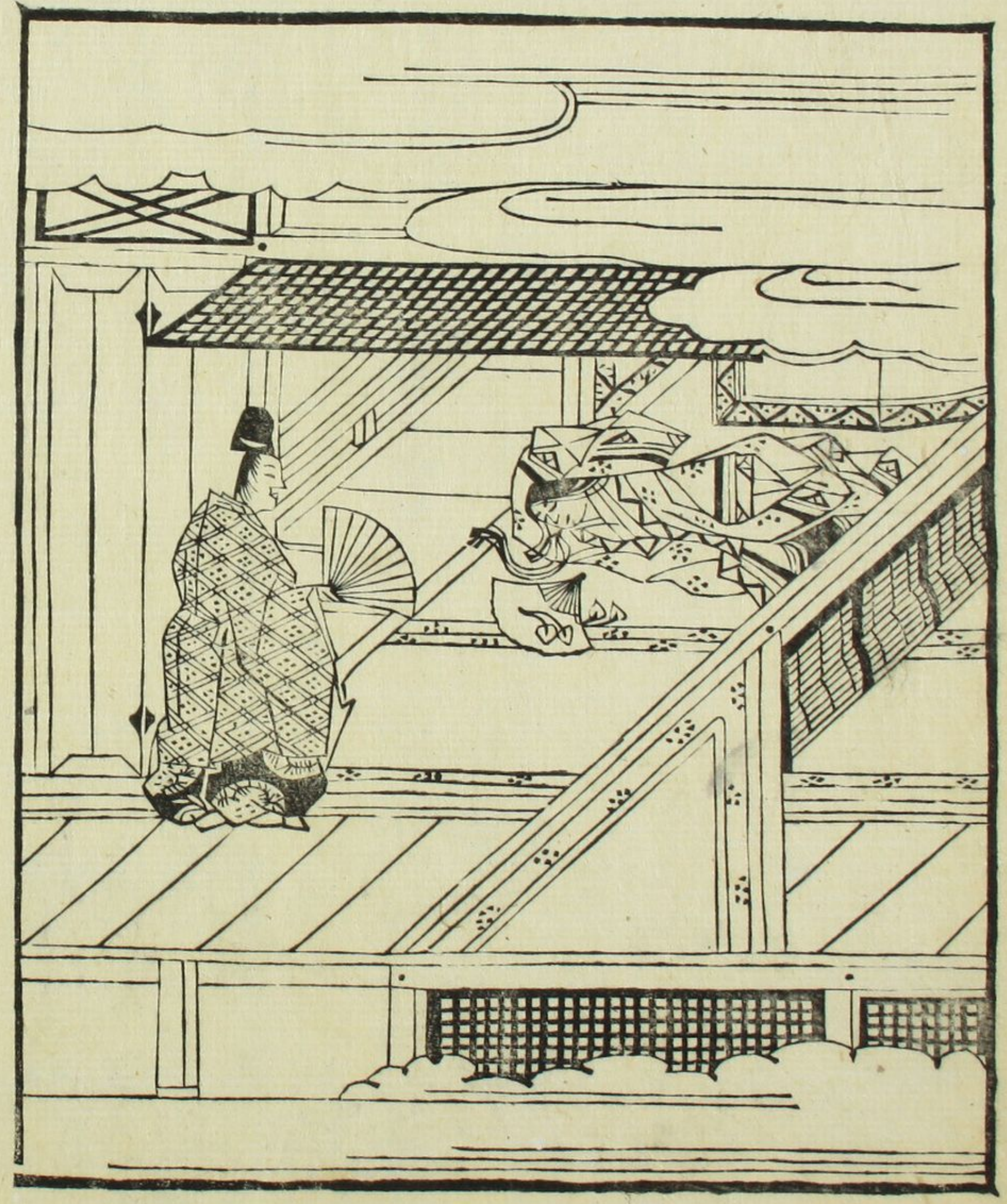
白くしはまのりいけしき

あつらひやまのりいけしき

あつらひやまのりいけしき

あつらひやまのりいけしき

あつらひやまのりいけしき



可也の事はさういふ事なり

七日の夜

七ヶ分乃の事なり  
さういふ事なり  
その事なり  
中好の事  
海にさういふ事なり  
源  
人なり  
乃の事なり

九日の夜

さういふ事なり

乃の事なり

大さういふ事なり

さういふ事なり

其の事なり  
土月中の  
節日

さういふ事なり

さういふ事なり

さういふ事なり

さういふ事なり

さういふ事なり

あつらひのしるしをいふに  
あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

あつらひのしるしをいふに

高き事始りて源く...  
とまきまひ...  
とちり...  
大...  
夕...  
多...  
好...  
み...  
こ...  
ま...

新

花...  
ら...  
夕...  
ま...  
そ...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...

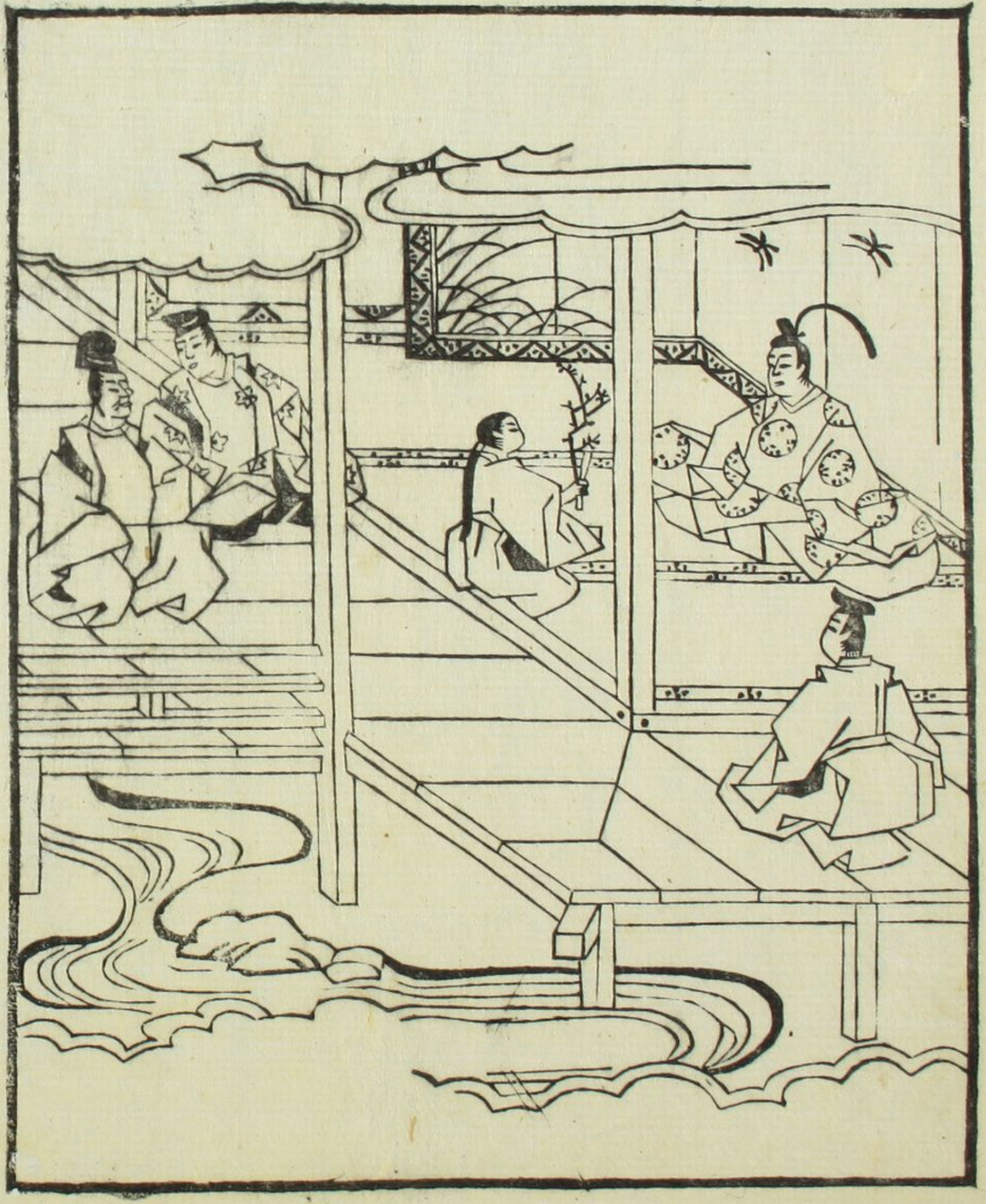
わさしうまていふまゝにわさしうまていふまゝに  
 昔もわさしうまていふまゝにわさしうまていふまゝに  
 九よ成りよ年一三位の宰相をして申すまゝに  
 ありおのりて又成りよ六の若君なるまゝに  
 乃ちおのりて又成りよ七の若君なるまゝに  
 わさしうまていふまゝにわさしうまていふまゝに  
 らすふまゝにわさしうまていふまゝに  
 ゆまのわさしうまていふまゝにわさしうまていふまゝに  
 今もわさしうまていふまゝにわさしうまていふまゝに











きんぎょ

水の方田より此筆のしるしよの恵れし物との  
あておくりし白ひのあしらうらるる昔のま  
より世中をさそやうとさひく人の梅の花あで  
けりあまのまをそしお天あつてまゝのうらるる  
なるんさよあかりたきさかりさどまゝの  
よあやけしあまのまをそしお天あつてまゝの  
申の表紙あまんとらけけつるあまのまをそし  
あまのまをそしお天あつてまゝのうらるる  
よさうあまのまをそしお天あつてまゝの  
きんぎょのまをそしお天あつてまゝの  
しんぎょのまをそしお天あつてまゝの







廿日あすなりは此梅の花さうりゆき子孫の伝  
 傳はれし人おろしう中門入多よ同を御す  
 ちる人さうき人おゆしつきてお梅のゆはり  
 梅さうさよゆさうゆさうさあづきあづきあ  
 けしあきあささうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 此の伝しあんの志こよひの伝きあささ  
 されけしあんの志こよひの伝きあささ  
 わさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさ

人なれ花よらさうりきん  
ひらりせまきしきれいのも  
世の女さるき

あうりやあはれまきん柳乃んあ  
あまらうりやうりきん

あうり深竹枝う若竹枝の

竹乃のうりきん

うりきん

あまの  
竹乃もあまらうりきん

うりきん

あまのあまらうりきん

打うりわの若様しきあまらうりきん

中乃若うりあまらうりきん

よらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

あまらうりあまらうりきん

わさきいそしほつて月あつてむしけし姫君  
さうらゆい月あつてくれさうらゆい  
おのひりまよなまこ花こころく

いさし事おれ君

いさし事おれ君  
まらさか  
まらさか

まらさか

いさ方乃ち甲乃君

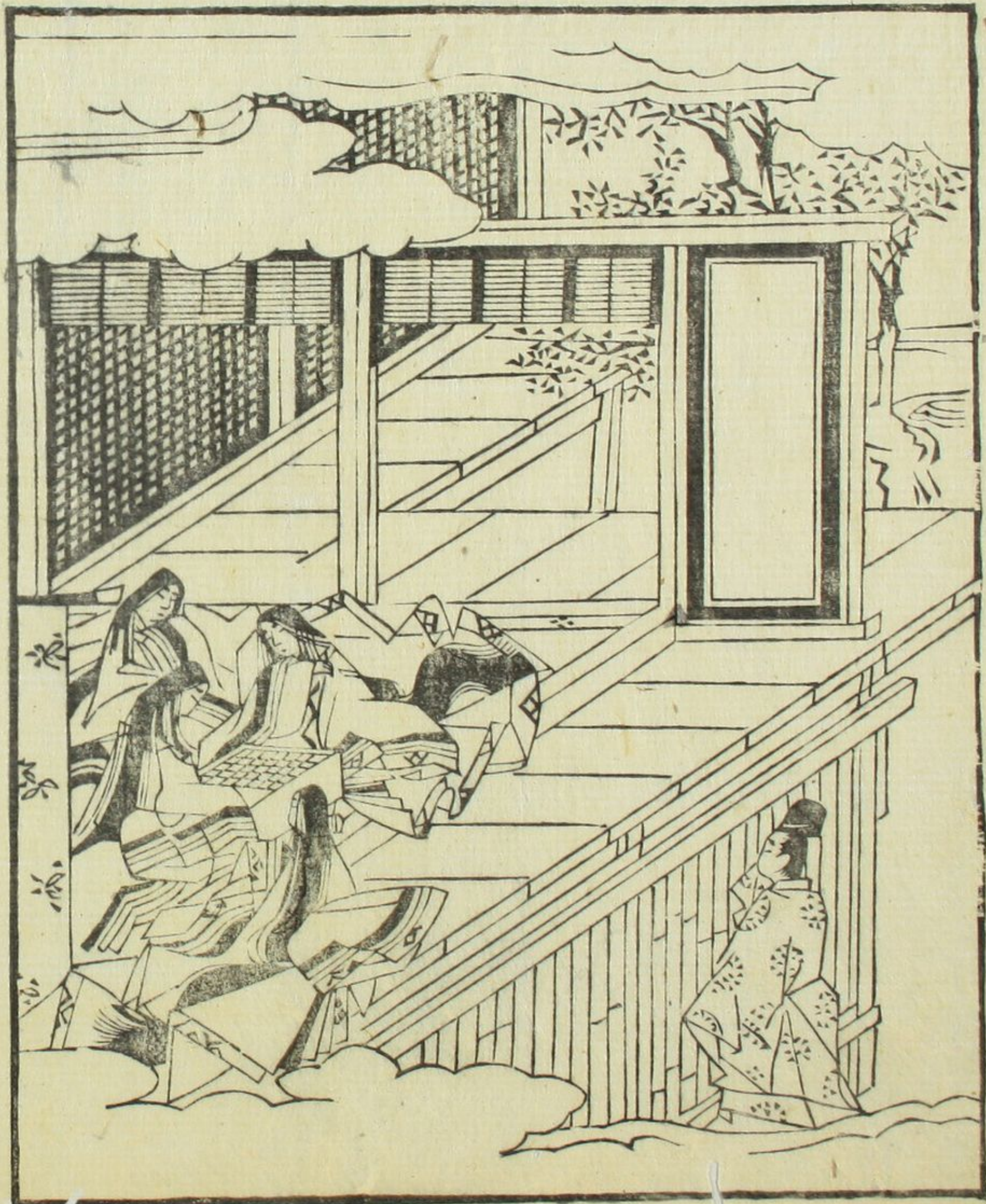
わさきいそしほつて月あつてむしけし姫君  
さうらゆい月あつてくれさうらゆい

わさきいそしほつて月あつてむしけし姫君  
さうらゆい月あつてくれさうらゆい

わさきいそしほつて月あつてむしけし姫君  
さうらゆい月あつてくれさうらゆい

わさきいそしほつて月あつてむしけし姫君  
さうらゆい月あつてくれさうらゆい  
おのひりまよなまこ花こころく  
まらさか  
まらさか





ば事を翁人おぼましくしてあふら思ひて  
 ぬれを舟のなるせせりまねておし井らむうら  
 へは又とまのせむるもをらうらうら流あ  
 りうぬららまうらうらおがまけいあはれをよこ  
 ぬまのしあうらうらて中れまうらあはすうら  
 らあまぬらあひあうらうらうけいあはれをよこ  
 ういまうらうら深ゆれぬのよけえのうらうらひ  
 ううてみまてあはれあ  
 うまうらうらうらうらあはれあ  
 うまうらうらうらうらあはれあ  
 うまうらうらうらうらあはれあ

あつらへあつたづられ中ねのよこいおのしきあ  
何の事か〜

いよやそもあつたづられあつたづられあつたづられ  
く〜

中ね〜

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

中ねのあつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

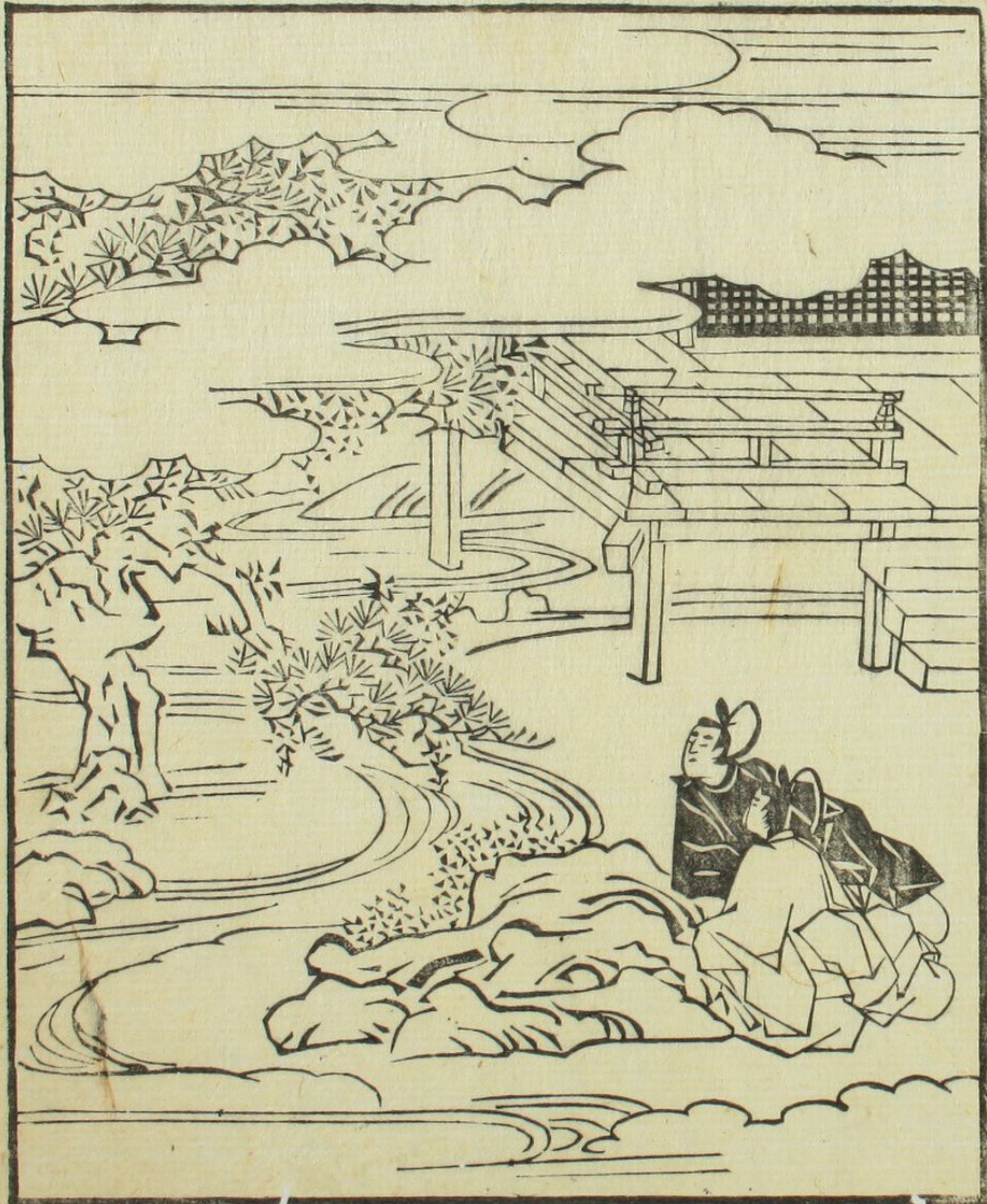
あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ

あつたづられあつたづられあつたづられあつたづられ



かんらんへ海より舟を運ぶ源氏物語  
 のゆかりをなほ憶ふとてあつたは彼  
 所へはあまの女もあまのまじりかゝる  
 をるる御のこゝ

昔  
 舟より舟を運ぶ源氏物語  
 のゆかりをなほ憶ふとてあつたは彼  
 所へはあまの女もあまのまじりかゝる  
 をるる御のこゝ





